













令和 5年 4月 15日 第114号 瀬波中町 役員会(文責:田宮)

# 町内令和5年度 総会 意見・提案についての役員会議報告

1) 大祭 乗り子着物の「クリーニング代」について

菅原さんより頂き役員会で検討することとしました。

- ◎:令和4年度の瀬波大祭において、「クリーニング代」が若連中の会計から支出されているが、正しいのか、 今後の考えを聞きたい?
- 3月26日 役員会議に 「若連中世話方の木村さん」に参加頂き、 説明と意見をお聞きしました。
- ◎世話方 木村さんの説明
  - \*4年度は、 コロナの影響で乗り子として参加できていない生徒を含め選びました。
  - \*4年度は、寄付金集めをせず、町内からの補助の増額で対処していたが巡行時に寄付があり多少の余裕ができた。
  - \*兄弟で参加した家庭もあり「個人負担が大きく」なる等の懸念を考慮し、 寄付金を充てることとした。
  - \*現行ではクリーニング代金は借り主負担となっていることから「若連中が借り主」になることで対応した。
- ◎若連中 木村さんの要望
  - \*法被も白丁は町内所有である、「着物も同様に」 町内所有となっているが着物の洗濯代は借り主負担となったいる。法被同様に町内より拠出するのが公平と思うが、役員会の見解は?
- ◆ 以前より 「書面で要望」を頂いており、総会での意見、世話方の意見を踏まえ「役員会で検討し、下記の 処理で対応することとしました。
- ① 乗り子着物等貸出規程の変更又は廃止。 → 役員会で内容を審議し、8月までに決定する。
- ②「法被・白丁同様の扱い」とすることが正しい。

理由 町内所有である

屋台巡行には「乗り子」は不可欠

今後の「乗り子の確保」「兄弟での参加」 等での個人負担回避

公平性の担保

③ 令和5年度 屋台等修理特別会計には「乗り子着物の洗濯代」は計上されていません。 予備費 30.000円を使用する。

令和6年度予算に「洗濯代に計上」する。



### 結論

令和5年 瀬波大祭より、「乗り子着物」の洗濯代は町内負担とする。

## 「春の百万遍」 1 組の有志で開催

3月21日(火)に公民館で「春の百万遍」が1組の有志が集まり行われ ました。

新型コロナ感染防止の観点から、今回も大数珠を回さず「南無阿弥陀仏」 の掛け軸を掲げ、花・お菓子・果物等をお供えし、参加者全員で町内の皆さ んの安全・健康・除災害・承伏を祈願しました。



# 瀬波の歴史

# 深浦に残る瀨波の髷

### -信心深い船乗り-

「板子一枚下は地獄」という諺(ことわざ)がある。江戸時代、木造の和船は構造的に波浪・強風に弱く、海難が頻発した。

瀬波町御用日記帳にも、海難の記録がたくさん出ている。天保9年から文久3年までの15年分で瀬波湊・瀬波浜での海難の件数は41件、年平均2.73件になる。海難0件の年はわずか3ヶ年だけである。天気予報を船頭の経験と勘に頼るしかなかった時代の悲劇である。この時代は結局、船乗りは神仏の御加護に頼るしかなかった。

下の表は青森県西津軽郡深浦町にある「風待ち館(北前船資料館)」の方から頂いた深浦湊に入港した瀬波船の記録である。

No	年号・月日	屋号・船名・船主・船頭名	その他(円覚寺文書等)
1	天保4年3月26日	酒 屋 神通丸 平八船	仏像造立のため円覚寺に寄進
2	同	観音丸 忠六船	同
3	天保5年3月12日	山形屋 順徳丸 甚左衛門	同
4	天保7年	山形屋 栄徳丸 甚右衛門	金比羅堂建立のため寄進
5	天保7年	三社丸 助三郎	同
6	天保9年	三社丸 助三郎	同
7	天保9年	長濱屋 住吉丸	同
8	天保9年	喜兵衛 宝栄丸 又治郎	同
9	安政元年5月	山形屋 栄太郎	
10	元治2年丑3月26日	元久丸 七兵衛	円覚寺に髷額を奉納(現存)
11	慶應4年辰6月7日	嘉寶丸 嘉左衛門	円覚寺に髷額を奉納(現存)
12	明治5年	吉壽丸 重三郎	仁王門建立のため寄進
13	明治5年	萬幸丸 甚右衛門	仁王門建立のため寄進
14	明治17年	伊勢丸 渡辺佐太郎	髷 額
15	同 18年	闰	TRI 14
16	同 19年4月10日	闰	1 2 4 4 4
17	同 30年	児島丸 渡邉助三郎	京菜
18	同 30年	神悦丸 木村辰蔵	· 大利 · 大 · · · · · · · · · · · · · · · ·
19	大正7年	勢運丸 佐藤幸蔵	写真と本文は別という真言宗を表光山の円覚寺

天保4年の神通丸(源蔵船)と観音丸(六郎兵衛船)は蝦夷地に米を売りに行く途中、帰港した吹浦湊でに苦しむ人たちのために米を仕入れ値で売り払った船である。

19隻の船の多くが深浦町の真言宗 春光山 円覚寺に金銭を寄進し、航海の安全を祈願している。

その中で元治2年の元久丸と慶応4年の嘉宝丸の2隻の船乗りは円覚寺に「髷額」を奉納している。

これは、船が遭難したときに、自分たちの「髷」を切って生還を神仏に祈願し、一命を取り留めた後、感謝のとしてその髷を奉納したものである。2隻の遭難した場所など詳しいことは分からない。

奉納髷額(全部で28点)は現在、国の重要有形文化財に指定され、大切に保存されている。

### <会計報告> <u>令和5年3月1日~令和5年3月31日</u>

諸経費	電気料	水道料	ガス代	灯油代	事務費	備品,雑費
	3,502	2,970	2,200	0	22,010	0
補助金	公民館	防災会	育成会	みよし会	若連中	祭維持会
	0	0	0	0	0	0



町内のホームページ